令和８年度　第２回学校運営協議会　会議録要旨　議題「学校再編に向けて」

日時：令和８年 10 月３日（土）14:00～15:15
場所：由良中学校１階会議室
参集範囲：由良小中学校学校運営協議会委員、PTA 役員等、学校関係者、教育委員会

【主な意見】

●地域コミュニティ・地域存続への懸念
・小学校は地域コミュニティの中心であり、学校がなくなると地域の灯りが消えたように感じる。
・学校を核として、子どもと地域住民との交流が生まれており、そのつながりが失われることを心配している。
・体育会などの学校行事は、多くの地域住民が楽しみにしている地域交流の場となっている。
・統合によって由良地域が取り残されるように感じるという不安がある。
・学校がなくなることで、移住や定住を考える子育て世帯が減少する可能性がある。
・将来的に過疎化が進み、人が集まらない地域になることを懸念している。
・学校再編の検討とあわせて、地域活性化や雇用創出についても考える必要がある。
・教育委員会だけでなく、市全体の地域政策として検討してほしい。

●地域文化の継承とふるさと教育
・由良には独特の方言や地域文化があり、それらが薄れていくことを心配している。
・子どもたちに「由良に誇りを持って育ってほしい」という思いがある。
・学校や地域での暮らしを通じて、自然に地域文化や地域への愛着が育まれている。
・漁業をはじめとする地域産業を身近に感じながら育つ環境は大切である。
・地域に誇りを持ち、将来地域へ戻ってくる人材の育成につながっている。

●小規模校の教育的価値と地域とのつながり
・少人数だからこそ、異学年交流や地域との密接な関わりが生まれている。
・地域の大人や高齢者と自然につながる環境は貴重である。
・保育所、小学校、中学校が地域の中で連続して関わる現在の教育環境を大切にしてほしい。
・地域への愛着やふるさと意識を育む上で、小規模校の果たす役割は大きい。

●地理的条件・防災拠点としての役割
・由良地域は台風や豪雨時に道路が通行止めとなり、市内と分断されることがある。
・他地域と同じ条件で学校再編を判断するのではなく、災害時の代替交通手段の確保も含め地域特性を考慮してほしい。
・小学校、中学校とも避難所・防災拠点として重要な役割を果たしているので、統合後も地

域の避難所機能を確保してほしい。
・跡地利用については、地域が継続して活用できることを前提に検討してほしい。

●通学・生活環境への影響
・統合後は通学距離が長くなり、保護者の送迎負担が増えることを懸念している。
・スクールバスだけで十分に対応できるのか不安がある。
・特に中学生は部活動や塾があり、保護者の送迎機会が増える可能性がある。
・スクールバスの運行便数や運用方法を示してほしい。
・地域クラブ活動への参加方法も含めて交通支援を検討してほしい。

●学童保育・地域クラブ活動の継続
・統合後の学童保育の運営場所や運営方法が不透明である。
・学校終了後に地域へ戻ってから学童利用ができるのかなど、具体的な説明が必要である。
・地域クラブ活動が統合後も継続できるのか不安がある。
・できる限り地域で活動できる仕組みを維持してほしい。
・地域クラブの指導者確保や活動継続への支援が必要である。
・地域住民や保護者が活動を支えているが、担い手不足を心配している。

●教育環境・教職員体制
・淡路島で勤務する教員が減ることは残念である。
・地域や子どものことをよく理解している教員の存在は大きい。
・働き方改革によって教育活動や部活動への関わりが制限されることを心配している。
・教員が培ってきた指導経験やノウハウを今後も生かしてほしい。
・地域クラブ活動では、教員だけでなく地域住民も含めた支援体制が必要である。

●再編の進め方と検討のあり方
・統合ありきではなく、複数案を比較しながら検討してほしい。
・小中一貫校など段階的な再編方法も選択肢として検討してほしい。
・地理的・地域的条件を踏まえた由良独自のモデルを考えてほしい。
・一度に統合するのではなく、ステップを踏んだ再編が良いのではないか。
・施設改修や校舎活用の可能性についても検討してほしい。

●情報提供と合意形成
・統廃合の成功事例・失敗事例など、判断材料となる具体的な資料を提供してほしい。
・他地域の保護者や教職員の意見を知りたい。
・メリットだけでなくデメリットも含めて情報提供してほしい。
・MIN-TSUKU 通信などを活用した継続的な情報発信を望む。
・地域住民が将来像をイメージできる説明が必要である。